

2022年5月13日

経済レポート

中国経済レポート(No. 72)

中国の高学歴化と雇用のミスマッチ

調査部 研究員 丸山 健太

1. 「安定」最優先のもと雇用重視が鮮明に

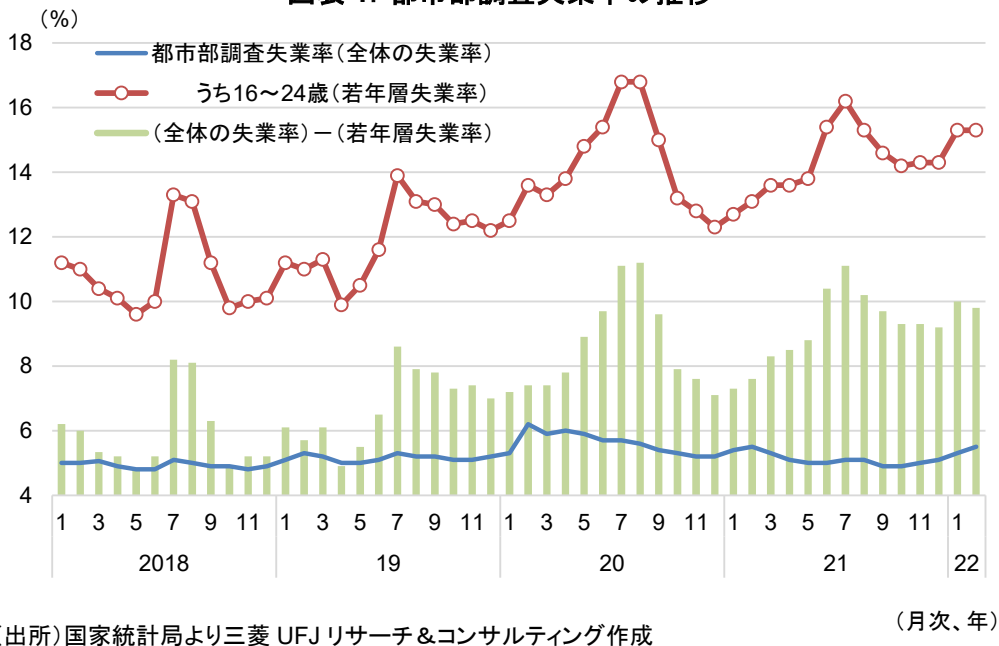
全国人民代表大会(日本の国会に相当、年1回)が2022年3月に開催された。初日の「政府活動報告」では、例年と同様、前年の経済情勢の総括と本年の政策運営方針が示され、5年に1度の共産党大会を秋に控える2022年の経済運営は「安定」を最優先とする方針が強調された。

「政府活動報告」ではいくつかの数値目標も示された。実質GDP成長率目標が「5.5%前後」に引き下げられたことに関心が集まったが、「安定」最優先のもと、雇用重視の姿勢も鮮明となった。同報告では、財政・金融政策の中心に雇用優先を据えるとしたほか、就業・起業への政策支援を強化するなど、雇用安定・雇用創出に積極的な方針が示された。

雇用関連の数値目標では、「都市部新規就業者数1100万人以上」と「都市部調査失業率(失業率)5.5%以下」が示された。前者は2021年と同様であったが、後者は2021年の「同5.5%前後」から目標レベルがやや引き上げられた。2021年実績は前者が1269万人、後者が5.1%だったことから一見すると、いずれの目標も達成は容易に見える。もっとも、失業率はこのところ再び上昇に転じ、直近2月は5.5%に悪化するなど、雇用情勢は楽観を許さない。

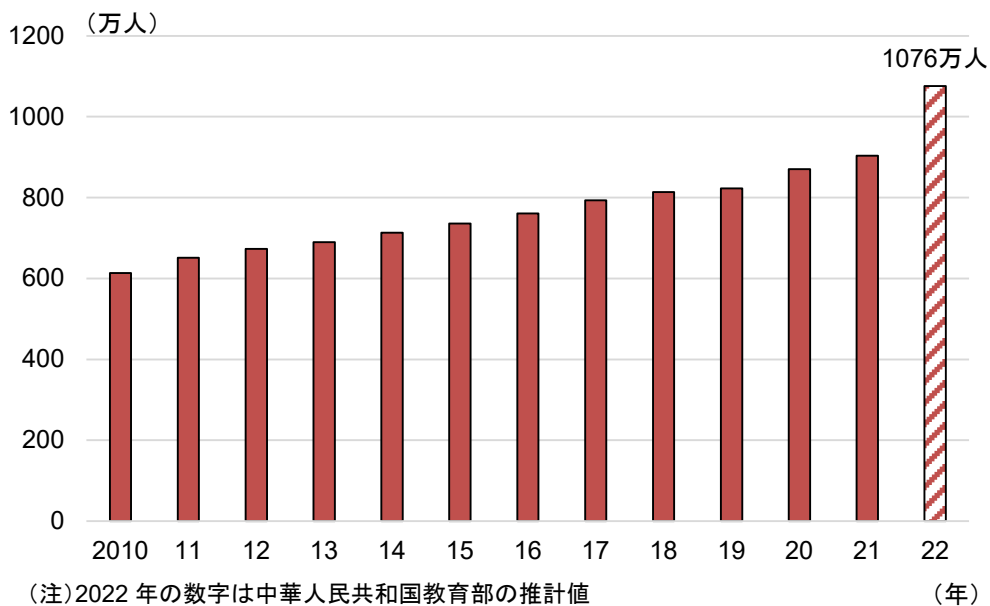
2. 若年層の雇用悪化が顕著

中国の雇用情勢については、若年層(16~24歳)の雇用悪化が顕著となっていることも懸念される。16~24歳の失業率は15%前後で推移するなど、全体より高い(図表1)。特に、2019年後半以降、若年層失業率と全体の失業率の差は拡大傾向にある。

図表 1. 都市部調査失業率の推移


3. 大卒者が増加する中、雇用のミスマッチが深刻化

中国では、高学歴化の進展により大卒者数は年々増加し、2022年の卒業生数は初めて1000万人を超える見込みである(図表2)。前年からの大幅増が見込まれる背景に、職業教育拡充の一環として、2019年に政府主導で2~3年制の高等専門学校¹の入学定員が100万人分増加したことがある。2022年は、当時の入学者の大部分が卒業する年にあたる。

図表 2. 大学(高等専門学校、大学院を含む)卒業生数の推移


(出所) 中華人民共和国教育部より三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング作成

¹ 中国語で「高等職業院校」。大学と同様に高等教育の一形態である。

政府が公表する都市部求人倍率(求人数÷求職者数)は2021年平均で1.57倍と、求人数が求職者数を大きく上回っており、1000万人の大学新卒者を吸収するだけの労働需要はあるといえる。

しかし、雇用のミスマッチが先述の若年層の雇用悪化を招いており、政府目標である雇用改善が順調に進まない懸念がある。ミスマッチの背景には、大学新卒者の希望職種が専門知識を要するホワイトカラーに偏る一方、労働需要が強く、人手不足が深刻化しているのは、コロナ禍で重要性が再確認された販売員や配達員といった、日常生活を維持するために不可欠な、いわゆる「エッセンシャルワーカー」や、輸出好調な製造業におけるブルーカラー職種であるという事情がある。

例えば、上海市では、2021年7~9月期において、企業の求人より求職者の方が多く、求人倍率が低い業種を見ると、「不動産経営管理専門職(求人倍率:0.5倍)」、「会計専門職(同:0.5倍)」、「図書資料専門職(同:0.5倍)」と、いずれも専門知識を要するホワイトカラー職種である。一方、企業の求人は多いものの求職者が少なく、求人倍率が高い業種は「商品販売員(求人倍率:8.0倍)」、「その他機械製造基礎加工職(同:6.0倍)」、「顧客サービス管理員(同:4.0倍)」などで、いずれも求人倍率は日本の介護職を上回り²、人手不足が深刻になっている。また、天津など他の主要都市では、「配達員」や「冷蔵庫製造工」、「エアコン製造工」の求人倍率が高く、接客業やブルーカラーの職で人手不足が目立つ。

こうした労働市場での職種ごとの需給のミスマッチは、大卒者の増加が続くことにより、一段と拍車がかかると見られる。また、IT専門人材などについては、企業が求める水準を大学新卒者が超えていないことも、雇用のミスマッチを生む一因とされる。

4. ミスマッチ解消に向けた課題

大卒者数の増加とともに一段と強まる雇用ミスマッチの傾向を放置すれば、人手不足がより深刻化し、経済成長の鈍化につながるほか、就職難が社会不安に発展する懸念もある。

ミスマッチ解消のためには、2つの方策が考えられる。第一に、「エッセンシャルワーカー」やブルーカラー職種の魅力を向上させることである。魅力の向上には、企業によるところは大きいですが、賃金上昇などの待遇改善が重要であろう。また、政治的な啓発活動などを通じて、これらの職種は「エリート層」である大卒者が就くものではないという価値観を払拭することも必要となる。

第二に、産業用ロボットの導入などを通じた無人化・自動化により、「エッセンシャルワーカー」などの職での人手不足を解消することである。同時に、産業高度化を進め、高学歴労働者の希望を満たす職を創出するとともに、高学歴労働者がその職に相応なスキルを身に付ける機会を提供する職業教育の拡充も欠かせない。

いずれも、社会の意識変革や産業の資本・技術集約化を加速させる必要があり、その実現は容易ではない。もともと、雇用のミスマッチ問題の解消は、社会秩序安定の維持や経済成長の持続のためにも、政権にとって優先度の高い課題である。

² 日本の「介護サービスの職業」の有効求人倍率(パートタイムを含む常用)は、3.60倍(2021年平均)だった。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。